図5　出土遺物実測図（S=1：4）、写真

| 報告書抄録 | |
|---|---|
| ふりがな | じほうじいせき・じほうじはいじはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 実法寺遺跡・実法寺廃寺発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 |
| シリーズ番号 | 第71集 |
| 編著者名 | 中川　猛 |
| 編集機関 | 姫路市埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1　　TEL（079）252-3950 |
| 発行年月日 | 平成30年（2018年）3月31日 |

| 所収遺跡名（ふりがな） | 所在地（ふりがな） | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 実法寺遺跡・実法寺廃寺（じほうじいせき・じほうじはいじ） | 兵庫県姫路市実法寺294番1・294番5（ひょうごけんひめじしじほうじ） | 28201 | 020121 | 34°52′06″ | 134°38′16″ | 2018.2.7～2018.2.8 | 4.85㎡ | 造成工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 遺跡調査番号 |
|---|---|---|---|---|---|
| 実法寺遺跡・実法寺廃寺 | 散布地、寺院跡 | 平安時代 | 溝・土坑・ピット | 緑釉陶器・瓦・土師器 | 20170483 |

### 例言

1. 本書は、姫路市が東鋒食品株式会社の委託を受けて実施した、姫路市実法寺294番1・294番5に所在する実法寺遺跡・実法寺廃寺（異遺跡番号020121）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の実施ならびに本報告書の刊行に際しては、東鋒食品株式会社に多大なるご協力を頂いた。
3. 現地調査及び整理作業、報告書の編集は、姫路市教育委員会　生涯学習部　埋蔵文化財センターが実施した。
4. 発掘調査で得られた出土遺物、図面、写真等は姫路市埋蔵文化財センターにおいて保管している。

### 凡例

1. 発掘調査で行った測量は、世界測地系（測地成果2000）に準拠する平面図直角座標系第V系を基準とし、数値はm単位で表示している。
2. 本書で用いる標高は、東京湾平均海面（T.P.）を基準とし、使用する方位は世界測地系の座標北である。
3. 土色は、小山正忠・竹原秀雄編2003『新版　標準土色帳　25版』日本色研事業株式会社に準拠した。
4. 遺構番号は基本的に通し番号とする。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第71集
実法寺遺跡・実法寺廃寺発掘調査報告書
編　　集　姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1
発　　行　姫路市教育委員会
〒670-8501　兵庫県姫路市安田四丁目1番地
発 行 日　平成30年（2018年）3月31日
印刷・製本　松尾印刷株式会社
〒671-0222　兵庫県姫路市別所町小林247番地



# 実法寺遺跡・実法寺廃寺発掘調査報告書

（昭和43年撮影、S=1：6,000）

2018

姫路市教育委員会

**1　調査に至る経緯**　姫路市実法寺 294 番 1 他において楽陽食品株式会社により造成工事が計画された。事業地は周知の埋蔵文化財包蔵地である実法寺遺跡・実法寺廃寺（県遺跡番号：020121）に所在する。平成 29 年 7 月 26 日付けで文化財保護法第 93 条に基づく届出が姫路市教育委員会にあった。届出の内容に基づいて協議を行い、平成 29 年 8 月 17 日に敷地内の 4 箇所で確認調査を実施した。調査の結果、西端の 3 区を除き遺構・遺物が確認された。確認調査の成果をもとに遺跡の取り扱い協議を行った結果、4.85 ㎡については工事による遺構面への影響が避けられないことが判明した。この部分を対象として、兵庫県教育委員会からの平成 29 年 10 月 24 日付の通知により、平成 30 年 2 月 7 日・8 日の両日、本発掘調査を実施した（図 3）。

**2　遺跡の位置と周辺の歴史的環境**　遺跡は姫路市の北西部、夢前川の支流である菅生川右岸の平野部に位置する。平野部を取り巻く東西の山塊には前方後円墳の天神山 10 号墳や、両袖式の横穴式石室を有す伯母山 1 号墳等がある。その他、調査を行っていないため実態は明らかではないが、奈良時代とされる伯母山窯跡、中世とされる寺谷廃寺と引照廃寺が知られている（図 1）。平野部には菅生川沿いに氾濫原が広がり、それより西側に条里地割が確認できる。集落のある付近のみ条里に乱れがあり、その部分が実法寺遺跡・実法寺廃寺である（図 2）。遺跡は吉田俊三が実法寺出土として軒丸瓦・軒平瓦を紹介したのが、公刊されたものとしては初見である[1]。同遺跡ではこれまでに 2 度の調査が行われている。1 次調査は、今回の調査地の西隣りで行い、地元で「塚」と呼ばれる遺構の断割り調査と敷地内のトレンチ調査が行われた。トレンチ調査では平安から鎌倉時代の土坑・柱穴等が検出された。「塚」は瓦等を廃棄集積したもので、寺院等に関する遺構ではないことが確認された。しかし、ここからは大量の布目瓦とともに無提式の風字硯 2 点が出土している。[2]2 次調査は今回の調査地から西へ 150m の場所で実施され、弥生時代から古墳時代の遺物が出土した。[3]

**3　調査の成果**

**基本層序**　耕土、床土、包含層（3･4 層：厚さ 10 ～ 16 ㎝）を経て黄褐色シルトもしくは砂礫層の地山に至る（図 4）。包含層（3･4 層）は調査区の東側のみで検出した。4 層については地山（6 層）より凹んでいることから浅い遺構となる可能性はあるが、調査区の内では明確な掘込みを確認できないことから包含層とした。これらの層からは摩滅していない瓦が大量に出土した。図 5-1 は包含層から出土した軒丸瓦である。二重圏線内に珠文を配す。蓮弁には笵傷が認められる。

**SD01**　調査区南端で検出した。SK01 を切り、調査区南側にある道路側溝と平行する。規模は延長 1.9m、幅 60 ㎝以上、深さは最大で 34 ㎝を測る。調査区南側を流れる水路の前身である可能性が高い。本遺構からも瓦が大量に出土したが、埋没時期を示す遺物の出土はない。図 5-2 は均整唐草文軒平瓦の破片である。

**SK01**　SD01 に切られる土坑である。調査区外に広がるため全容は不明である。検出規模で長辺 1.8m、短辺 1.25m、深さは最大で 41 ㎝を測る。埋土中から大量の瓦の他、土師器皿 **4**・土師器場 **5** が出土した。**5** は播磨型とされるもので 15 世紀以降に出土する。[4]特筆すべき遺物として緑釉陶器片 **3** がある。軟陶で釉の色調は濃緑色、胎土は白く、内面は黒色を呈す。器種は不明であるが、一般的な椀・皿ではないと思われる。

**SP01**　SD01 の北側で検出した。直径約 30 ㎝、深さは遺構検出面から 27 ㎝を測る。埋土中から土師器細片が出土している。

**SP02**　SP01 の西側で検出した。直径 24 ㎝、深さは遺構検出面から 8.5 ㎝を測る。埋土中には炭を含み、上面から被熱した瓦が出土した。遺構に伴うものではないが、埋土下部から凹基式の石鏃が出土した。

**SP03**　SP02 に近接して検出した。直径 10 ㎝、深さは遺構検出面から 7 ㎝を測る。杭穴と考えられる。遺物の出土は認められなかった。

**4　総括**　今回の調査は極めて限定された規模であったが、総重量 44.4kg の瓦が出土した。いずれも原位置を保ったものではなく、包含層や後世の遺構に含まれる状態であったものの、図 5 の写真に示すように摩滅しておらず、もともと近辺にあったものと想定できる。確認調査の 1 区においても瓦を包含する土坑の存在を確認している。また、1 次調査では「塚」からも多くの瓦が出土しており、近隣に瓦葺き建物が存在した可能性が高い。今回の調査で出土した平瓦は凸面に平行タタキを施すものが多く、播磨地域では平安後期に位置づけられるものである。[5]軒瓦も平安時代の所産と考えられる。空中写真によれば、調査地周辺のみ条里地割とは異なり、概ね正方位に近い地割が確認できる。これをもって即座に寺院の存在を指摘できるものではないが、江戸時代に記された『播磨鑑』には観音堂付近に天文年間頃まで寺があったとの記述がある。今回の調査で実態の不明な「実法寺」に迫る重要な成果を挙げることができたといえよう。

註


(1) 吉田俊三　1974『夢前川流域史』、　(2) 姫路市教育委員会　1999『TSUBOHORI　平成 9 年度姫路市埋蔵文化財調査略報』
(3) 姫路市教育委員会　2018『実法寺遺跡・実法寺廃寺発掘調査報告書』姫路市埋蔵文化財センター調査報告第 68 集
(4) 長谷川眞　2007『播磨の土製煮炊具』『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～補遺編』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
(5) 今里幾次　1995「姫路市松原八幡神社の出土遺物」『播磨古瓦の研究』真陽社


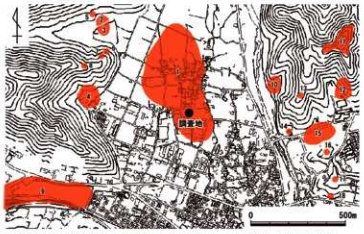


図 1　調査地と周辺の遺跡（S=1:20,000）

（昭和 43 年撮影　赤線は地割を示す）

図 2　調査地周辺の空中写真（S=1：15,000）

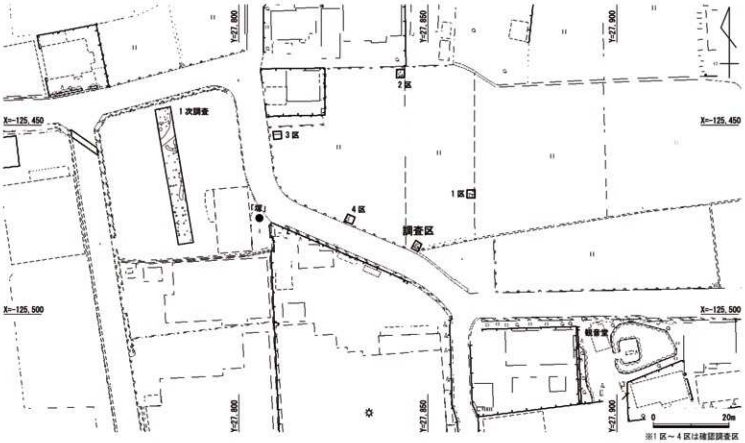


図 3　調査区配置図（S=1：1,000）

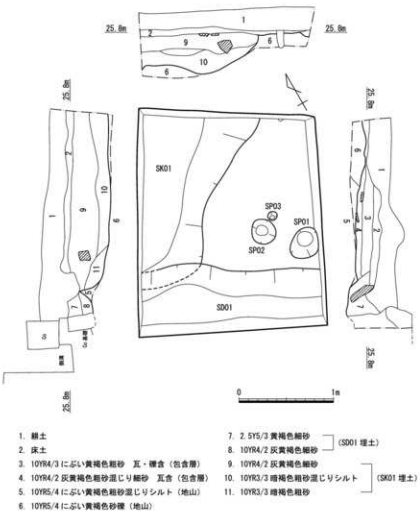


図 4　調査区平面図・断面図（S=1：40）

写真 1　調査区全景（南から）

写真 2　包含層遺物出土状況（東から）